

学校教育目標		意欲的に学び、共に伸びあう、心豊かな子供の育成		重点目標	よく考え、失敗から学び合う子供の育成			
評価計画				自己評価			学校関係者評価	
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	改善計画	
重点目標に関する評価	【学力アップ部】 学力向上に向けた学び方の定着	①自分の考えを、文字・図・式などで表し、説明する活動を行う。	①自分の考えを、文字・図・式などを使って書いたり、説明したりすることができる子供 (教師の見取り 80%)	3	○問いに対する自分の考えを理由などを明確にしながら表現する活動や学習の終末に振り返りを書く活動を設定することで、自分の考えを表すことができるようになってきた。 △算数では、友達の考えを基に分かったことを自分の考えに付け加えるなど、整理する活動を設定したが、自分の考えを整理するまでには至っていない。 △自分の思いや考えを自分の言葉で説明する活動を設定し、表現できるようにしているが、図や式と考えを関連付け、それを基に説明することに課題が見られる。 ○「大切にしたい学び方」に加え、姿勢や挙手、聞き方などの学習規律が身に付いてきた。	A	・自己評価は適切である。 ・整然と挙手、発表する姿が見られた。 ・学習規律の定着が見られることはこれまでの指導の成果であり、今後も継続してほしい。 ・日頃の遊びからコミュニケーションを多く取り入れてはどうか。 ・友達との交流は、学年に応じて工夫されている。子供同士の学び合いがさらに充実することを期待する。 ・自分の思いや考えを表現することが苦手な児童も多いように感じる。まず、教師が子供との対話を大切に、安心して思いを表出できる経験を積ませてほしい。	・学習に向かう集団づくりのためにも、支持的風土づくりのためにも、来年度は「聴くこと」を重点目標に設定し、取り組む。 ・「大切にしたい学び方」の中に、発達段階に応じた「聴き方」を位置付けた上で共通理解し、共通実践を図る。 ・「真剣に聴く」「責任をもって伝える」という関係性を育てる。 ・構造的な板書や、授業における考えを見直す時間の設定、ノート整理の指導など、職員による改善を継続する。
		②自分の間違いや友達の考えを活かすために、誤答を残したまま、赤で修正したり、青で付加・改善したりする時間を確保する。	②友達との交流から、自分の考えを見直したり、友達の考えを付け加えたりしている子供 (教師の見取り 70%)	3				
		③学習過程を踏まえた構造的な板書およびノート指導を行う。	③キーワード等をもとに自分の考えをノートに整理できている子供 (教師の見取り 80%)	4				
		④「大切にしたい学び方」による学習規律を徹底する。	④「大切にしたい学び方」各項目の達成度85% (教師の見取り)	3				
	【豊かな心部】 ・凡事徹底 ・生徒指導三原則で支え合う学級集団づくり	⑤あいさつ、掃除、時間厳守、かかと揃えに取り組み、取組の成果を可視化する。	⑤あいさつ、靴のかかとそろえ、黙々掃除ができています子供 (教師の見取り 80%)	3	△あいさつ強化週間などを設定して取組を行ってきたが、習慣化はできていない。 ○様々な行事の中で、具体的な目標を設定させ、振り返りを行い、価値付けを行ったことで学校生活への充実感を感じる児童が多くなった。	A	・自己評価は適切である。 ・挨拶が良い子や、来校者から褒められた例等を紹介してはどうか。 ・挨拶への意識づけを取組前に行ってはどうか。 ・安心・安全な風土の醸成は大切なことである。	・日常的コミュニケーション促進のために、朝の活動に全校で交流する「ワクワクタイム」や「ぼかぼかタイム」を取り入れる。 ・あいさつの良さを実感するような取組を部会と児童会で行っていく。
		⑥生徒指導三原則 (自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場) を意識した学級づくり・学校づくりを行う。	⑥自分の学級・学校が好きの子供 (児童アンケート 80%)	4				
		⑦実行委員を中心に、朝の体力作りの活動を行い、外遊びを奨励する。	⑦朝の体力づくりに参加する子供 (児童アンケート 85%)	3				
	【体力アップ部】 楽しみながら体を動かす習慣をつけ、友達と失敗から学び、高め合う	⑧体育の学習のねらいを明確にし、運動の楽しさを味わえる授業を行う。	⑧運動が嫌いな子 (児童アンケート 10%以下)	3	○体育の学習においてスモールステップでの目標設定を行うことで達成感を感じる児童が増えた。 ○タブレット端末等を活用することで苦手な子が多い器械運動でも挑戦する児童が増えた。	A	・自己評価は適切である。 ・体力づくり＝遊ぶ力になるような楽しい行事を行ってほしい。 ・縄跳び検定の縦割りでの取組は、子供同士がつながり、上級生が育つ良い方法だと思う。 ・運動が苦手な子供に、さらにスモールステップで目標設定したり、タブレット端末等を活用したりして、楽しめるよう指導してほしい。	・朝の体力づくりでは、子供同士が得意・不得意に関係なく楽しめるルールや励ましの工夫を行う。 ・今後も子供同士がつながって活動できるよう、縦割りグループやペアづくりを行うとともに、伸びを可視化し、称賛し合える活動にする。
		⑨行事や授業で目標を立て、友達と協力して達成に向け取り組む活動を仕組む。	⑨目標をもち、友達と励まし合って取り組む子供 (児童アンケート 80%)	4				
	【特色ある教育活動】 お互いを認め合う態度を育てる	⑩英語活動・外国語活動・外国語科で文字に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図るよう、伝えたい思いを高めるプラス1 (単元構成や伝え合うよさに気付くための手立て) の工夫を行う。	⑩英語の文字に慣れ親しむ子供 (教師の見取り 70%) 英語でのコミュニケーションの楽しさを味わっている子供 (児童アンケート 85%)	4	○外国語科、外国語活動 (英語活動) の学習や、英語によるチャレンジ集会など異学年と関わる機会を作ったことで、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わう児童が増えた。	A	・自己評価は適切である。 ・モデル校としての伝統があり素直にのびのびと外国語活動を楽しむ姿は明治の子供の良い所だと思う。今後も是非、継続してほしい。	・英語活動・外国語活動、外国語科の授業において、コミュニケーションの土台として「聴く」姿勢とスキルを育てていく。
いじめの未然防止と早期発見・早期対応		・児童会を中心に、あいさつ運動や縦割りの活動と「ぼかぼかレインボー」「3・9の日」の取組を関連させ、同学年や異学年との温かい関わりを増やす。 ・学校生活アンケート、無記名アンケートの実施と教育相談の実施 ・児童理解会議による共通理解・共通実践 ・いじめ防止対策委員会等による組織的対応	・自分や友達達のいいところを見つけている子供 (児童アンケート 90%) ・アンケートと事後の教育相談の実施 ・児童理解会議の確実な実施 (月1回) といじめ防止対策委員会による共通理解と組織的対応の実施 (教師アンケート及び実施状況 100%)	4				
不登校防止	不登校児童の学校復帰と未然防止	・不登校傾向児童に関する情報の共有 ・予防・解消を目指す組織的な取組 (マンツーマン対応) ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問指導員等との連携した取組	・病気、家事都合以外の不登校傾向の児童の登校改善 (出欠状況 2%以下) ・SC、SSW、訪問指導員と連携し、欠席・遅刻しがちな子をサポートする。 (サポート体制 100%)	2 3	△不登校兆候・不登校の児童に対してSC、SSW、訪問指導員、児童家庭相談所等と連絡を密にしてサポートしたことで、一部に改善が見られるものの、不登校の児童がいる。	A	・自己評価は適切である。 ・不登校の原因は様々である。 ・まず担任との信頼関係、関係機関との連携等を深め、安全・安心な風土作りに努めてほしい。	・不登校児童、不登校傾向の児童と担任や学級との関係づくりを確実に行うとともに、個別対応をさら推進し、安心して登校できる体制づくりに努める。 ・関係機関との連携も引き続き密に行う。
		・学校閉庁時刻 (20時) での退校 ・各主任による計画的 (事前) 提案と共通理解する時間の確保とICT活用による業務の効率化	・20時まで退校した職員90%以上 (校務支援システム出退勤時刻) ・計画的提案の実施率 90%以上 ・ペーパーレス会議の実施 (毎回) ・ICT活用の推進 (教師アンケート活用率 80%)	3 3				

◇ 評価について  
 ・【自己評価】 4：目標達成 (90%以上) 3：ほぼ達成 (70%~90%) 2：もう少し (60%~70%) 1：できていない (60%未満)  
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

令和4年度 学校評価報告書

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)		
総括	教育課程 学習指導	年間指導計画や週案等による共通理解・共通実践効果的な指導方法の工夫	○週計画の量的・質的管理に関する指導助言と教室訪問・巡回による実施状況の確認 ○学力アップ、アフタースクール等の非常勤講師を活用した少人数学習の推進	4 3	○週案を通して、進度や進捗状況を把握しながら、各担任への指導助言を行うことができた。 △学力アップは計画的に行うことができた。アフタースクールの活用で個に応じた指導の充実を図る。	A A	・自己評価は適切である。 ・少子化の中で、個を大切にすることは良いことである。	・週案での重点単元の進捗状況等の確認を細やかにを行い、指導助言に努める。 ・学習サポーターを活用し、個に応じた指導の充実を図る。	
		進路指導	望ましい勤労観等の育成 キャリア形成と自己実現	○体験活動の充実(勤労奉仕活動、ボランティア体験、委員会活動、学校行事の係活動) ○「キャリアパスポート」を活用し、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	4 3	○体験活動については制約がある中だが、昨年度までよりもすすめることができた。 △キャリアパスポートによる意識付け、振り返りをさらに見直しをもって行うようにする。	A A	・自己評価は適切である。 ・キャリアパスポートは、鍛ほめメソッドの方式で取り組むとより見通しがもてるのではないか。	・体験活動の更なる充実を図り、年度当初にキャリアパスポートとボランティアパスポートで目標設定と振り返りの計画を共有するようにする。
	生徒指導	児童理解の充実	○児童に関する情報の共有化とアンケートを実施した後の教育相談等間等の確実な実施	4	○アンケートの着実な実施と共有、教育相談等間の取組を着実にを行うことができた。生徒指導記録の共有システムを作ること、関係機関も含めて組織的な対応を行うことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・事実関係把握と共に子供の思いに寄り添う必要もある。今後も担任が一人で抱え込まないよう組織的に取り組んでほしい。	・情報共有のシステムを活用し、更にこまめな情報共有と組織的対応の充実に努める。	
		積極的な生徒指導の推進	○生徒指導三原則(自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場)を意識した学級・授業づくり	3	△生徒指導三原則を意識した学級・学校づくりの意識は高まったが、年度初めからの共通実践の徹底が必要である。	A	・アンケートは内容の検討を行うことも必要でないか、	・生徒指導に関する共通理解・共通実践のための時間を学校独自の時間を中心に計画的に確保していく。	
		問題行動への組織的対応	○管理職・担任を中心とした面談・指導と関係諸機関との連携した組織的な対応	4	△生徒指導三原則を意識した学級・学校づくりの意識は高まったが、年度初めからの共通実践の徹底が必要である。	A		・アンケート項目と時期の再検討を行う。	
	保健管理	健康指導の充実	○保健学習、保健指導の充実 ○感染症防止教育、薬物乱用防止教育等の促進	4	○年間を通して、計画的に保健学習、保健指導を行った。	A	・自己評価は適切である。 ・今後も良いことは継続して取り組んでほしい。	・マスク着用や給食時間の指導の見直しなど、指針をベースとして、適切な声量や話題での会話や、食事中の姿勢に関して指導する。	
		学校給食の管理と食育の推進	○食事マナー、食物アレルギー対応の取組、食育に関する全体計画、年間計画の実施	3	△食事マナーについて改めて指導を行う必要がある。	A			
	安全管理	安全教育の実施	○避難訓練、不審者対応教育、防犯教育、交通安全教室等の実施	4	○大雨等の対応マニュアルを見直し、保護者も参加しての避難(引き渡し)訓練などを、より実践的に行うことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・様々なケースを想定した避難訓練や集団下校指導等、安全管理なされている。	・引渡し訓練等は複数年での見直しをもって行っていく。	
		教育活動中の安全対策	○安全点検の確実な実施(毎月始め) ○危機管理マニュアル等の確認と見直し	4	○安全点検を確実に実施、早急に対応を行った。	A		・集団下校とグループ下校を行う時期を計画的に設定する。	
		登校・下校時の安全対策	○通学路の安全点検、交通安全教室、PTA・地域との連携、集団下校指導	3	△集団下校グループや方法の見直しを行う必要があり交通安全指導も定期的に行っていきたい。	A	・良いことは今後も継続してほしい。	・事前予告を行わない避難訓練の実施を計画する。	
	特別支援教育	特別支援教育推進体制	○特別な支援が必要な児童の把握と個別の指導・支援計画の作成、関係機関との連携(相談室等)	3	○全職員、特別支援教育支援員も含めた職員研修を行った。	A	・自己評価は適切である。 ・次年度も校内での共通理解や関係機関と連携した児童理解を深める場をもってほしい。	・研修と情報共有の時間を計画的に設定する。	
		特別支援教育に関する研修	○全校授業研修会の実施(個に応じた指導)及びインクルーシブ教育システムに関する研修	4	△個別の指導・支援計画等の共有、指導のあり方についてさらに共通理解を図る必要がある。	A		・特別支援教育支援員と保護者の面談が行なえるようにする。	
組織運営	校務分掌の機能化	○各主任のリーダーシップの発揮と連絡・調整による共通理解・共通実践	4	○各分掌や各部会については、主任、リーダーを中心に話し合い、共通理解・共通実践に取り組んだ。	A	・自己評価は適切である。 ・全職員で共通理解の基で、重荷にならぬよう進めてほしい。	・水曜日午後の時間を活用し、各主任、部会リーダーが見直しをもって業務にあたるよう研修、会議を計画する。		
	組織マネジメントの確立	○学期毎の教育活動評価の実施と改善のための具体的方策(PDCAサイクルを活用した見直し)	3	△教育活動評価の改善項目について重点化を図った上で取り組み、効果を上げていきたい。	A		・教育活動評価の項目を精選する。		
研修	校内研究の充実	○研究授業年1回以上を全員実施 ○講師招聘による研修会の実施	4	○年間を通して、計画的に研究授業に取り組み、各職員の実践から学びあうことができた。	A	・自己評価は適切である。 ・得意分野を活かしたミニ研修会は良い取組。各職員の強味が発揮される学校であってほしい。	・各職員の得意分野を活かしたミニ研修会を計画的に行う。		
	キャリアステージと校務分掌に応じた研修の推進	○各職員の目標に応じた専門研修等の受講、研究発表会への参加奨励	3	△来年度は、重点目標や各自のキャリアステージに応じた専門研修への参加を更に奨励する。	A		・分掌や職員のニーズに応じた専門研修の受講を奨励する。		
教育目標 学校評価	教育目標達成をめざす学校評価の実施	○重点目標達成状況調査(学期1回)に基づく評価・改善・充実	4	○評価に基づいて、意識を高めて取り組むことができた。	A	・自己評価は適切である。	・項目の精選や取組の重点化を図り、成果を視覚的に示すようにする。		
	情報提供	各種通信・HP等による積極的情報発信 各種会合等での情報提供・啓発	4 4	○学年日より、Mボードを中心に、学校の様子を発信するよう努めた。 ○回数は少なかったが、会合の際に情報共有を行い、意見を聞く機会には有意義であった。	A A	・自己評価は適切である。 ・広報は今後も大事である。 ・自由な発想での行動を期待する。	・Mボードの活用や各通信について、重複する部分を整理しながら、効果的に学校の様子を伝える発信に努める。 ・定期的に関係機関との情報共有を行う。		
保護者・地域との連携	保護者との連携状況	○PTA役員会、運営委員会、PTA総会、家庭訪問、個人懇談会の実施	3	○まだ制限はあったが、家庭やPTA活動での連携を図ることができた。	A	・自己評価は適切である。 ・来年度は地域との交流の広がりを期待する。保護者との連携に係る発信も促進してはどうか。	・来年度からの水曜日午後の時間の活用について、児童・家庭にとっても有意義な取組となるようPTAや地域と連携を図る。		
	地域住民との連携	○地域住民との連携、まち協、民児協等との連携、行事への参加	3	△来年度は、地域の方に学校へ来て頂く機会を増やしていきたい。	A				
教育環境整備	学校施設の環境整備状況	○教室、特別教室、体育館、運動場の整備、遊具、プール、花壇等の点検・整備の充実	3	○計画的に予算執行を行い、備品購入や修理・修繕等をすすめることができた。	A	・自己評価は適切である。 ・学校の整備等大変だと思うので、地域でも協力していきたい。	・年間を通して、計画的に整備をすすめるとともに、地域とも交流の視点から協力体制を図っていく。		
	校内の環境整備	○計画的な配当予算の執行による、備品購入や修理・修繕の実施	4	△プールや花壇の整備の計画的な実施に加え、来年度は特別教室の整備をすすめていきたい。	A				

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである